

宮園小の研究（取組）について①

～自分のペースで学びを進める～

みなさん、こんにちは。

ご覧になられた方もたくさんいらっしゃると思いますが、1月18日（月）の中国新聞に、本校の研究（取組）についての記事が掲載されました。また、1月21日（木）には、四季が丘中学校区合同授業研究会をオンラインで行い、本校の取組を発表しました。

そこで、今回と次回は、本校の研究（取組）についてお伝えします。

●どんな研究をしているのか？

宮園小は、今年度から、広島県教育委員会の「個別最適な学びに関する実証研究事業」の指定校となりました（この事業の指定校は本校を含め県内で5校あります）。

この指定を受け、本校では、基礎的な学力の定着はもちろん、自分から進んで学び続けようとする意欲や力を育成するため、子どもたち一人一人が自分のペースや関心等に応じて学ぶ場や時間を設けています。そして、その自分のペースで学びを進めるための一つのツールとして一人の1台タブレットを導入し、その効果についても研究しています。

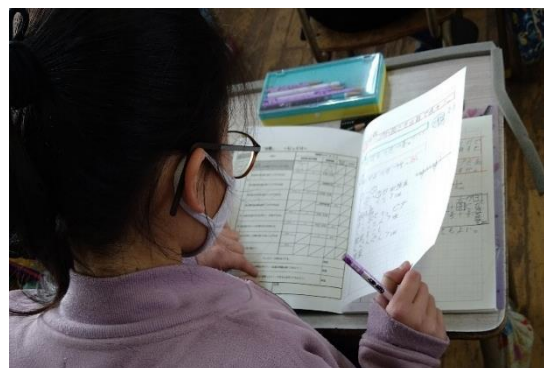
この研究は、学校教育目標「自分を育て みんなで伸びる」のもと、児童を「自立した学び手」に育てようとしている本校の理念とも一致するものです（校長メッセージ No15 も参照ください）。

●どのような取組を行っているのか？

具体的な取組の一例を紹介しますと、3年生以上では、一つの単元（学習のまとまり）を自分のペースで学習を進めることに取り組んでいます（これを「単元内自由進度学習」と言っています）。

この学習は、ある単元について、教師が作成した学習計画表を子どもたちと共有することから始まります。学習計画表には、単元で学習する内容、それに関係する教科書や資料・ドリルのページなどが書いてあります。

子どもたちは、この計画表をもとに、教科書や資料・ドリル等確かめながら、次に何をするか、順番や学習方法などを自分で決め、自分のペースで学習に取り組みます。そして、一つの内容が終わるごとに自分の学びを自己



評価します。

また、この学習では、常に子どもたちと「学習の進め方」を確認しながら進めるようにしています。「教科書をしっかり読む」「分からない時は分からないと言えるようにする」「まちがったときは、まちがえた理由をノートにきちんと書く」など、「自立した学び手」となるために身に付けてほしいスキルを子どもたちの実態に応じて提示しています。

もちろん、これだけで全ての子どもたちが学習を進めることはできません。教科書だけでは進めにくい、内容が分からないという児童もいます。そうした児童には教師が個別に指導します。必要な児童に必要な指導を行うのです。また、友だち同士の教え合い、学び合いも積極的に行うよう促しています。

●取組を進める上で大切にしていることは？

最も大切にしていることは、子どもたち自身が意思決定（自己決定・自己選択）する場を設定することです。学習計画表をもとに自分のペースで学びを進めるという取組は3年生以上で行っていますが、自己決定・自己選択という場の設定は1・2年生でも行っています。

これまでの教育は、教師が一律のペースで、同じ教材や教具を使って、一斉に指導する場面がほとんどで、そのため子どもたちは学びに対して受け身になりがちであったと指摘されています。もちろん、そうした学習場面も必要ですし、本校でもそういう場面はいくつもあります。

ただ、「それ（一斉指導）だけ」では「自立した学び手」は育ちにくい、と本校では考えています。自分のペースで学びを進めることを基本に、課題や学習方法（プリントで進めるか、タブレットで進めるかなど）を自分で決める、選択するといった、一人一人が自分の意思をしっかり意識して学習を進めることが必要だと考え、取り組んでいます。

(No 21 に続きます。)

令和3年1月27日 校長 中谷 一志